

(様式第7号)

おおさかグローバル奨学金留学報告書

平成27年 2月 11日

学 校 名				奨 学 金	平成25
				交 付 年 度	年 度
氏 名					
留 学 期 間	平成 26 年 1 月 27 日 ~ 27 年 1 月 13 日				
留 学 先	国 名	カナダ	学校名	Bracebridge and Muskoka Lakes Secondary School 及び I.E. Weldon Secondary School	
専 攻	主に英語の習得のための留学				

留学中の生活、留学の成果、留学で得たことをどのように活かすか、これから留学する人へのアドバイス等について2000字以上で記入してください。

早いもので、私が留学のために日本を出発してからほぼ一年経ち、長いようで短いような留学プログラムもついに満了しまして、1月13日、帰国にいたしました。自分自身、たいへん有意義な経験だったと満足しています。

2015年度のセメスターでは、アカデミックコースのイングリッシュクラス、ギタークラス、イヤープッククラス、そしてフレンチのクラスを選択しました。

イングリッシュクラスは、ESLではなく通常の現地生徒との授業だったので、授業内容や進度についていくことが思ったようにできず、いささが苦労しました。しかし、担当の先生が手厚く応援してくれたのでなんとか切り抜けました。

ギタークラスは、最初に提出いたしました計画書にもある通り、私の趣味はギターなので、非常に楽しめました。現地での友人の多くはギターをきっかけとして仲良くなりました。また詳しく後述しますが、一つ特技があると留学先での友達作りが円滑に行えると思います。

イヤープックというのは、日本で言うところの卒業アルバム・卒業文集のようなもので、それらよりエンターテイメント性に富んでおり、卒業というよりむしろ学校全体での出来事に重きをおいた内容であることが多いです。それゆえ、卒業生だけでなく在校生の多くも購入します。驚くべきことに、その本を生徒が作るという授業がカナダにはあるのです。生徒がテーマを決め、一年を通して写真を撮ったり、取材をしたりして、ページを一枚ずつ編集し、さらにはマーケティングまで生徒が行います。非常に実践的な授業で新鮮でした。

日本の授業では大抵の問題には、正しい唯一の答えがありますが、このクラスでは必ずしもそれが用意されているわけではないので、柔軟にそしてクリエイティブになることが求められました。また取材なども授業外での努力がある程度求められ、自発的に動くことの重要性にも気付かされました。自分一人が怠れば、自分の担当のページはちゃちなものになり、イヤープックそのものを台無しにしかねないというプレッシャーを実感することで、自分がすべきことに対する責任感が養われました。このクラスから学んだことは多かったです。

フレンチのクラスは、国際言語の一つとされるフランス語に興味があったので、以前から初歩的ですが少々、学んでいたので思い切って選択しました。と言うのも、カナダではフランス語は英語と並んで公用語なので、カナダでの英語使用学校では、日本で言う英語のように学ばれています。ですから、私は特別に九年生のクラスに編入してもらいました。それでも、彼らはエレメンタリースクールからフランス語を学んでいるので、授業についていくのは決して容易

ではありませんでした。しかし、フランス語を学ぶことは非常に楽しかったですし、新入生の若弱しさは授業を盛り上げてくれたので、一時は英語に集中するべきかとクラスの変更も考慮しましたが、最後まで変更せずに楽しみました。

九月からの学校には日本文化クラブというものがあり、日本に興味がある子が多かったので友達は案外すぐに出来ました。折り紙を教えたり、日本料理、日本から持ってきた日本のお菓子を振る舞ったり、日本の音楽などを紹介、ときには日本語を教えたりして親交を深めました。このときに痛感したのですが、日本人である自分は、自分の思う以上に日本のことをあまり知らないということです。これはとても歯がゆい思いをしました。今後留学を考えられている方には是非、海外に憧れて海外ばかりに目を遣るのではなく、日本のことも勉強してほしいと思います。

私も初めは自覚がありませんでしたが、留学先で出会う人々にとって自分は数少ない彼らの知っている日本人なのかもしれないのです。すなわち彼らの中では自分が日本人全体の代表になりえるのです。ですから、留学先での言動は場面に応じて適切である必要がありますし、やはりそれゆえ、自国のことを何も知らないというのはあまり好ましくないでしょう。

先に述べましたが、留学するにあたって特技が一つあると、友達作りに大いに役立ちます。特に自信の語学力に自信に無い方は一つあると心強いでしょう。スポーツや芸術は言葉がなくともある程度の意思疎通は可能です。殊に語学留学では友達をたくさん作り、たくさん英語を話す機会を手にしていくことが重要です。しかしながら「友達になりたいから喋りかけたいけどまだ英語に自信もないし、何を話せばいいかわからない。でもとにかく喋らないと英語は上達しない」というような、負のスパイラルに高校生の語学留学者であれば陥りやすいです。なにが一つ、特技や趣味があればこれがかなりの程度で解消されます。特技と言っても、それが上手でなくてもいいのです。それが好きならば、それを話題にしてお喋りするの楽しいですし、同じくそれが好きな人と馬が合いやすいはずで。

私の場合、ギターと音楽が趣味でしたので、同じくギター好きや音楽好きの子と、それを話題にしてお喋りしたり、好きなアーティストについて語り合ったりして友好を深めました。私の最後の登校日に友人の一人が、私の好きなロックバンドのアルバムをプレゼントしてくれたのは良い思い出です。

カナダなどの欧米諸国は日本より個人主義的ですから生徒一人一人が非常に個性豊かです。なので、何か一つ特技や趣味があると周りの個性に埋もれずに人気者になれると思います。

この留学を通して、私は心身ともに大きく成長したと思います。家族のもとを離れるのは、やはりまだまだ未熟な歳ですので、強がってはいましたがとても辛いものがありました。ですがその苦勞の為に家族の有り難さに気づきました。また我が国、日本の素晴らしさも他国で過ごしてみて、嫌というほど気づきました。なんといっても、故郷が一番だなあ、と。自分の中の愛国心が養われたことは、一人の日本人として嬉しく思います。

そして、なにより、自分の価値観や世界観が良い意味で大きく変わったことは、この留学で得た最大の成果だと思います。

私は、答えのない問、という類が大嫌いでした。1と2の和は3、という具合に唯一つの答えが用意されていないということが大嫌いでした。小説の中の登場人物の心情だって、日本の教育では、得てして一つに絞られます。なので、私は新しい何かを作ることが非常に苦手でした。しかしながら、カナダでの教育は、必ずしも唯一の正しい答えが用意されているとは限り

ませんでした。英語のクラスでは、題の文章を読み解き、それについて、自分の意見や知識を駆使して、論ずることが求められましたし、イヤブックスのクラスでは先にも述べたとおり、0から何かを作るという作業で、正しい唯一の答えは存在しません。

日本の教育の素晴らしいところは、豊富な知識や高度な処理能力を養えることです。ただ、それだけでは独創性や柔軟性に欠けることは否定しきれないでしょう。

現代の社会は国際化や地球規模化、情報化が目まぐるしい速度で進んでいます。社会は常に変化していき、その速度は速まることはあっても、落ちることはないでしょう。

そのような社会では、独創性や柔軟性が、これまで以上に求められていくはずで

この留学で得た経験と、日本人であること、二つの文化を知ることで見つけたこと、これらを調和させ、自分のアドバンテージになるよう今後も努力し、国際社会で大きく活躍できる人間になるため邁進していきたいと思いを。

また本留学プログラムについて、経済的にご支援いただきました大阪府ならびに公益財団法人大阪府国際交流財団の関係各位に一言御礼申し上げまして、報告書といたします。今後とも留学を志す学生へ、より一層のご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

※上記の内容については、公表される場合があることを了承します。

